

東大阪市住工共生まちづくりに向けたアンケート調査 結果概要

—市民向け—

1. 単純集計

1-1 回答者の属性

現住所の居住開始年は、ここ 20 年に居住開始した回答者で半数近くを占めている。「1980～1989 年」の 17.3%を足すと 7 割を占め、比較的居住年数が短い回答者が多い。

職業は、「無職」が 46.0%、「会社員等」が 24.0%、「自営業」が 19.0%となっている。

勤務先の場所は、「自宅併設の事業所」「東大阪市内」「東大阪市外」がいずれも約 3 割となっている。

平日の在宅時間帯は、深夜帯を除くといずれの時間帯も約 5～6 割程度が在宅している。

現住宅の用途地域（実際の用途地域：町丁より分類）は、「住居系（56.7%）」がもっとも多く、「工業 + 住居系（23.9%）」「工業（17.7%）」と続いている。

1-2 住まいの周辺環境

住宅周辺の工場については、「工場がある」が 77.6%、「工場がない」が 22.4%となっている。また、工場までの距離は、「隣接している」が 31.4%、次いで「30m以上」で 29.6%となっている。

工場の建設・操業開始時期は、「住まい入居以前から操業」が 78.9%と大半を占めている。

周辺状況の変化については、「周辺に住宅が増えてきた」が 57.2%と半数を超えている。一方で、「入居当時とほとんど変わらない」との回答も 40.8%と多く、大きく回答が割れている。

周辺環境の満足度は、「普通である」が約半数で、満足側、不満側の回答はほぼ均等に分布している。また、周辺環境不満の理由としては「工場からの騒音・振動・臭い等の問題」が 71.4%と突出して多く、次いで「工場に出入りするトラックなど交通事情が悪い」が 34.9%の回答がある。

居住継続の意向は、「これからも住み続けたい」が 66.0%と多いが、「できれば転居したい」も 13.1%ある。

周辺の工場との関係は、「普通である」が 72.9%に対し、「良好ではない」は 5.1%に留まっている。

周辺の工場とのトラブル・不満の有無は、「トラブルや不満はない」が 75.6%、「トラブルや不満がある」が 24.4%となっている。トラブルの具体的内容としては、「騒音」が 64.2%と最も高く、「臭い（43.3%）」「振動（40.3%）」「交通渋滞や駐車問題（29.9%）」と続いている。

トラブル・不満の対応策については、「特に対応はとっていない」が 56.1%と多いが、「行政への苦情・相談（24.2%）」「工場への苦情・話し合い（24.2%）」等の回答も一定数見られる。

1-3 住工共生まちづくり

モノづくりのまちと認知されていることへの誇りでは、「はい」が 64.1%と肯定的な回答が多い。

さらに、今後もモノづくりのまちとして認知されることへの感想としては、「市民（市全体）の共通認識を高めていく活動が必要」が 43.3%、「誇りに思う」が 33.6%と前向きな回答が多い。

工場減少の問題についての感想としては、「地域の経済にとってマイナス」が 52.3%、「まちの活気がなくなる」が 46.6%と多くの回答がある。

本市の方向性では、すべての項目で一定の重要としている回答（「かなり重要」「きわめて重要」の合計）があり、特に割合が高いのは、「市民と事業者の相互理解の促進によりトラブルをなくしていく（77.2%）」「現状の立地状況のままで、市民・事業者相互に安心して暮らしていける対策をそれぞれが講じていく（67.6%）」であった。

住工のトラブル解消に向けた対策では、「工業系地域にある住宅の住居系地域への移転促進のための支援（44.2%）」を除き一定の必要性としている割合（「かなり必要」「きわめて必要」の合計）があり、特に高いのは、「住宅と工場の隣接面に緑地や防音壁の設置等環境対策を行う際の支援（70.1%）」「工場の地域貢献に対する取り組みの強化（65.1%）」「住宅の近隣に工場を建設できないようなルールをつくる（58.3%）」などとなっている。

住工共存のためのまちづくり活動への参加意向は、「いいえ（参加したいと思わない）」が76.9%、「はい（参加してもいい）」が23.1%となっている。

工場の看板作成については、「良いことだと思うのでやってほしい」が69.9%、「特に必要ではない」が30.1%となっている。

2. クロス集計

2-1 「住まい周辺の工場とのトラブル・不満」によるクロス集計

- (1) 「トラブル・不満がある」と回答した回答者の属性（「トラブル・不満がない」との比較）
- 居住開始年が早い回答者がやや多く、また職業に関しては「自営業」の割合がやや高い（24.6%）。
現住宅の用途地域（実際の用途地域）は、「工業」の割合がわずかながら多い（21.2%）。
また、平日昼間の在宅時間割合もわずかながら高い（49.1%）。
住宅周辺に「工場がある」が9割以上と高く、当該工場が「隣接している」が5割以上を占める。
周辺環境の満足度を見ると、「どちらかといえば不満」「非常に不満」が合わせて7割以上を占める。
居住継続の意向は、「これからも住み続けたい」割合が4割強とかなり低くなっている。
- (2) 本市の方向性（「トラブル・不満がある」グループで「かなり重要」「きわめて重要」の合計が高い項目）
- 「現状の立地状況のままで、市民・事業者相互に安心して暮らしていける対策（84.4%）」
「これ以上の住宅と工場の混在を防止するルールを決める（73.2%）」
- (3) トラブル解消に向けた対策（「トラブル・不満がある」グループで「かなり必要」「きわめて必要」の合計が高い項目）
- 「住宅と工場の隣接面に緑地や防音壁の設置等環境対策を行う際の支援（79.6%）」
「市民と工場事業者が一緒になってトラブルの解決を図るための活動組織をつくる（66.7%）」
「地域が独自にトラブルの未然防止に向けたルールをつくる（66.7%）」
「トラブル・不満はない」グループでは、「工場の地域貢献に対する取り組みの強化（65.9%）」、「住宅と工場とが交流したり、相互理解を深めるための取り組みに対する支援（49.7%）」といったコミュニティ形成を図るための対策への必要性が高くなっている。

2-2 「住工共存のためのまちづくり活動への参加」によるクロス集計

(1) 「はい(参加してもいい)」と回答した回答者の属性

職業は「自営業(23.4%)」「会社員等(31.3%)」の割合がやや高く、勤務先の場所は、「自宅に併設している事業所」の割合が4割と高く、続いて「自宅に併設している事業所以外の東大阪市内」、「東大阪市内外」の順となっており、勤務先が近い人ほど関心が高くなっている。

住宅周辺に「工場がある」がやや高く(83.1%)、当該工場が「隣接している」割合がやや高い(37.7%)。
周辺状況の満足度について「どちらかといえば不満」「非常に不満」の割合が高い(計31.8%)。

2-3 「看板作成についての考え」によるクロス集計

(1) 「良いことだと思うのでやってほしい」と回答した回答者の属性

「親子二世帯(34.1%)」「親、子、孫の三世帯(8.4%)」の割合がやや高い。

職業は「会社員等(26.5%)」「パート・アルバイトなど(8.5%)」の割合がやや高く、勤務先の場所は、「東大阪市内」の割合が高い(39.4%)。

住宅周辺に当該工場が「隣接している」割合は低めだが(29.5%)、「10~30m(23.3%)」、「30m以上(31.5%)」と少し離れるとやや高くなっている。

周辺状況の満足度について「大変満足」「どちらかといえば満足」の割合が高い(計24.5%)。